

高校生の模擬国連という教育プログラム

浅野中学・高等学校

社会科教諭

宮坂 武志

模擬国連とは

読者の皆さまは、「模擬国連」という活動についてご存知ですか？

全日本高校模擬国連大会を主催するグローバル・クラスルーム日本委員会のホームページには、「模擬国連とは、学生が各国の大使になりきり、実際の国連の会議を模擬する活動」¹と説明されています。この活動を高校で実践すれば、高校生が大使の役割を演じるロール・プレイングとなり、模擬会議を通じて国際問題を議論するアクティブ・ラーニングとなります。

大使になった生徒は、担当する国の現状や政策などを深くリサーチし、その内容をまとめたレポート²をもとに会議に参加します。会議は、あらかじめ議題を設定しておき、その議題についての解説書³を事前に熟読してもらってから開催されます。会議の進行は、原則、大使のスピーチと討議、交渉を繰り返す形式ですが、会議を運営するフロントの判断ないしは裁量により決まります。すでに開催されている高校生の模擬国連会議は、グローバル・クラスルーム日本委員会の設定したルールやプロシージャに従うことが多いので、ぜひ、そちらのホームページを参照してください⁴。

ところで、模擬国連はそもそも大学生が始めた活動です。日本では30年以上前に、当時上智大学教授の緒方貞子氏（元国連難民高等弁務官）のもとにいた学生が中心になって、ニューヨークの模擬国連会議に参加することをめざして組織されました⁵。もちろん外国ではそれより古く、何と

約90年前、1923年のアメリカ合衆国はハーバード大学で始まったようで、国際連合の発足前から国際連盟を模した「模擬国際連盟（Model League of Nations）」としてスタートしたとのことです⁶。そして今では、ニューヨーク・ボストン・ハーグ・ベルリン・シンガポール・北京など、世界中の主要都市で、大学生や教育機関などが主催者となって定期的に開催されています⁷。

高校生の模擬国連について

高校生の模擬国連は、1991年に京都外大西高等学校が英語学習の一環として取り組んだのが始まりで、現在でも関西高校模擬国連として続いています⁸。首都圏では、公文国際学園高等学校が2002年にオランダ・ハーグの模擬国連会議に参加して以降、継続的に海外の会議に参加する一方で、2007年からは校内会議も開催しています⁹。さらに冒頭に紹介したグローバル・クラスルーム日本委員会が2007年、高校模擬国連の国際大会に、日本代表の生徒を派遣する事業を始め、その年の秋に東京で全日本高校模擬国連大会を開催しました¹⁰。全日本大会は、年々、参加希望校が増加し、昨年（2017年）は全国から150校以上の応募があり、書類選考で約80校にしぼられています。

現在、模擬国連に取り組んでいる高校のほとんどが私立の学校で、SGH（スーパーグローバルハイスクール）に認定された学校はとくに熱心です。また公立の参加校には、校名に「国際」と名のつく学校が多いようです。いずれにしる模擬国連で使用される言語が基本的に英語であるため、英語

教育や国際教育のプログラムの一つとして導入されているからだと思われます。

しかし、英語だけ使用して国際問題を議論するのはあまりにハードルが高いので、全日本大会では議事進行やスピーチなどを英語で、議論や交渉は日本語でと、使う場を分けています。よって、この活動には、英語科と社会科（地歴・公民科）の教員が関わることが多くなります。もちろん、環境や科学の分野を議題とすれば理科の教員が、日本語での議論ということになれば国語科の教員がというように、多角的に捉えれば、どの教科・科目の教員でも指導したり、関係したりすることは可能です。実際に模擬国連に取り組んでいらっしゃる先生がたは、さまざまな教科に所属しています。

では、現在、模擬国連に取り組んでいる学校は、どのような形式でこの活動を実施しているのでしょうか。私なりに活動のタイプを類型化して、大きく4種類に分けました。

1 模擬国連を通年の授業として取り組んでいる学校

このタイプは、総合学習などの授業時間や放課後学習など学校が特別に設定した時間を利用し、一年間のカリキュラムを計画的に作成して、学習プログラムとして実施している学校です。早期に取り組み始めた学校が多く、SGHがスタートする前から取り組んでいるところもあります。

2 模擬国連を部活動として取り組んでいる学校

模擬国連部という部活動を立ち上げて、模擬国連に意欲的な生徒を集めて活動している学校です。活動内容として、国際問題を議論したり練習会議を開いたりします。新興の部活動となりますが、どの学年にも部員がいれば、先輩が後輩を指導することで活動の継続性も期待できます。

3 全日本大会や練習会議などに参加するときに生徒を募集する学校

大半の学校はこのタイプです。模擬国連という

活動は、まだまだ認知されているとはいえないので、各校に参加を希望する生徒は数名だったりします。しかし、その数名のやる気に理解を示し、模擬国連を体験させてあげたいと思う先生が、可能な限りのサポートをしようとする、このタイプになります。

4 海外で開催される模擬国連会議に、直接参加する学校

大会参加費・渡航費・滞在費などを考えれば、簡単に取り組むことはできませんが、海外研修の現地プログラムの一つと考えれば、導入を検討する余地はあると思います。ただ、相当の英語運用能力を必要とするため、大抵はネイティブの英語教師が準備や引率に関わっていることが多いようです。

以上の4種類は、私がこの活動を始めてから知った情報をもとにまとめたものです。私の勤務校の浅野中学・高等学校（神奈川県私立男子校）では部活動として模擬国連に取り組んでいますが、ディベート部の活動内容の1つとして模擬国連にも参加させるという形をとっています。ディベートは日本語と英語の両方で行いますから、ディベートの知識やスキルをベースに、模擬国連に挑むことにも躊躇することはないようです。また、模擬国連を全校生徒に広く認知してもらうため、中学3年の社会の授業時間の中で、生徒全員に体験してもらいました。かなり簡易型の形式ですが、詳細は東書Eネットにレポートを掲載してあります¹¹ので、関心のある方はご覧ください。

模擬国連が注目されはじめた背景として

21世紀型教育やグローバル教育、アクティブ・ラーニングなどの教育方法（用語）が話題になる中で、模擬国連という教育プログラムは、これらの目標や内容にかなり合致する活動だと言えます。生徒が主体的にグローバルな課題についてディスカッションし、他者との協同作業で解決策を練っていく。トピックや担当国によっては、う

まく議論がまとまらず、議案が採択されずに終わることもあります。それは挫折感や徒労感ともなりますが、その失敗を教訓にするということも可能です。答えのない、あるいは解答が容易に出せない現代の諸問題に、正面からチャレンジするという点でも、これからの教育に最適のプログラムだと言えるでしょう。

模擬国連が校内において行われる場合と、他校の生徒と交流して行われる場合とでは、異なった教育効果があると思われます。高校生が他校の生徒と交流する機会はあっても、普通、そこで国際問題を議論するというレベルにまではならないのではないのでしょうか。しかし、この活動なら全国の高校生どうし、知的な交流をすることが可能です。それを実現できた要因の1つは、インターネット環境の急速な整備と、ICT教育の進化ではないかと思われます。

会議の議題を共有する方法、事前に各大使から担当国の事情を報告してもらうPP（註2を参照）の提出・共有方法、各校・各生徒への連絡など、メールや共有フォルダなどを利用しなければスムーズに行うことはできません。連絡手段が手軽で便利になったおかげで、高校生でも全国規模の模擬国連会議を行うことができるようになったのです。

その手段を存分に駆使して、昨年、初めての「高校生の高校生による高校生のための」模擬国

連全国大会が開催されました。

全国高校教育模擬国連大会でも ICT のツールを活用

私が役員として関わらせていただいている全国中高教育模擬国連研究会（全模研）の先生がたの間で、高校生主体の模擬国連大会ができないかと提案があったのが一昨年の夏でした。以来、模擬国連に関わる先生がたが話し合い、ついに昨年の冬、第1回大会の開催を全国の高校生に呼びかけました。

その際、「高校生による」大会にしたいという思いから、大会準備や運営などにあたる実行委員の高校生を全国から募集することにしました。募集案内は、模擬国連活動を以前からサポートしていただいている公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）のホームページに掲載しました¹²。その結果、初めての試みながら全国から40名以上の高校生が実行委員として集まりました。もちろん役員の先生がたの所属する学校からも応募はありました。しかし、事前の情報が得にくい北海道や近畿圏からも高校生が実行委員に手をあげてくれたのは、インターネットの普及が大きく影響していると言えるでしょう。

大会は8月7日～8日の2日間、東京・代々木の国立オリンピック・センターで開催されました。会議本番までの半年間、実行委員の高校生は総務

広報、運営受付、フロント（会議進行）の各セクションに分かれて、それぞれができることを分担して準備に励みました。しかし、全員が集まって会合する機会は持てず、SNSを通じてコミュニケーションをとるしかなかったのです。ここでもICTがフル活用されました。相手の顔も知らない状況でコミュニケーションするわけですから、時に感情的になったり、誤解を与えてしまったりするリスクもありました。そこで、実行委員どうしの



SNS上でのやりとりを、役員の教員や ACCU の担当の方がチェックするようにしました。もちろんセクション・リーダーの高校生が指示したことが、実行委員にうまく伝わらなかったり、リーダーの高校生たちと役員の教員との理解に微妙な認識のずれがあったりするなど反省点もありましたが、それでも忍耐強く、互いに準備に励むことで、日本で初めての「高校生による」全国大会を開催することができたのです。

大会に大使として参加する高校生には、専用のホームページやフェイスブックを開設して、学校経由でなくても伝達が届くようにし、必要な資料がいつでも入手（ダウンロード）できるようにしました。ただ、その方法の周知徹底が遅れたために、情報が完全に伝わらないこともあり、この点は今夏の大会に向けて改善されていくでしょう。とはいえ、ICT を駆使しなければ、高校生も教員も相当の労力と時間を準備のためにかけなければならなかったのですから、昨今の情報技術革命が、全国の高校生の知的交流の機会をつくるのに相当貢献したことは確かです。

当然課題も多く残りました。なかでも実行委員が関東だけでなく各地に住んでいるため、当日まで直接顔をあわせることが難しいという問題です。無理に事前に集まろうとすれば、移動手段や交通費、宿泊場所などを手配しなければなりません。それでも事前の準備を進められたのは、SNS の

おかげというより、SNS に頼らざるをえないという状況によるものです。

また、役員の教員にも担当セクションがあり、私の場合、総務広報セクションでしたが、インターネットの活用について懸念することがありました。会ったことのない他校の生徒を、メールという手段だけで、指導したりアドバイスしたりしなくてはならないのです。当然いつも以上に文面や内容に気を遣いました。もちろんメール・アドレスなどの個人情報も、保護者と所属校の承諾を得たうえで、慎重に取り扱わなくてはなりません。幸い、今回の実行委員の生徒はだれもが責任感のある高校生ばかりでしたので、大きなトラブルなく終えることができました。

だれでも参加できる大会をめざして

ところで、今回の大会はもう1つ、選考なしに「だれでも参加できる」会議をつくることが、目標となっていました。本来、海外の模擬国連会議は、学校単位で申し込みをして、参加費さえ支払えば、希望者全員が参加できるというスタイルです。しかし、前述したように海外の場合は、英語の運用能力がハードルを高くしてしまいます。そこで、今回は初心者や初級者でも参加しやすい大会とするために、ほぼ日本語だけで行う会議にしました。その結果、北は北海道から南は鹿児島まで、500 名以上の高校生（トライアル版の中学3

年生を含む）に参加してもらうことになりました。当日の会議は、高校生だけで三会場が設けられ、共通の議題である「核軍縮」について、それぞれの会議で議論してもらいます。個々の会場がほぼ同じ国割りで構成されていますが、「核軍縮」という共通の議題を討議しながら、異なる決議案が作成されることになりました。会議当日のようすについては、高校生新聞のオンライン版¹³や、河合塾教育研究部の「みらいぶ」というサイ



ト¹⁴で詳しく紹介されています。

より多くの高校生に全国規模の模擬国連会議を体験してほしいという私たち役員の思いは、この大会で少しは果たせたのではないかと感じています。ただし、開催場所が東京であったという点は、各地からのアクセスのよさなどを考慮したとしても、検討する必要があります。今後、関西大会や地方大会が組織されるためにも、全国の高校に模擬国連を認知してもらう努力を続けなくてはなりません。

この記事を読まれている学校関係者の方々が、模擬国連に興味をもっていただけたなら、ぜひ一度大会の見学にいらしてください。当然、今夏の大会に参加申込みをしていただいてもかまいません。大使の募集は4月ころを予定しています。案内もしくは要項は ACCU のホームページにアップされます¹⁵。また、大会公式ホームページからも確認することができます。昨年の大会 HP では、実行委員のスタッフが初心者向けに、フェイスブックや動画で活動内容や会議の流れを紹介しました。今回もまた、少しでも興味を示した生徒が、模擬国連に参加できるようなきっかけとしくみを提供できればと考えています。

おわりに

模擬国連が実際にどのような活動なのか、という紹介は紙面の都合上できませんでした。しかし、グローバル・クラスルーム日本委員会の HP には、はじめて取り組む人のための入門ガイド¹⁶が掲載されています。独特の用語や会議の流れを理解するのに、はじめは苦勞すると思います。でも、実際の会議を何回か見学してみると、高校生たちの活気と底力に圧倒されるはずです。模擬国連は、未来を託したいと思える生徒を育てられるプログラムの1つと思えるのではないのでしょうか。

[注]

- 1 <http://jcgcc.accu.or.jp/aboutmun.html>
- 2 ポジション・ペーパー Position Paper、もしくはポジション&ポリシー・ペーパー Position & Policy Paper と言います。略称として PP もしくは PPP と表記します。
- 3 バックグラウンド・ガイド Background Guide と言います。略称として BG と表記します。
- 4 <http://jcgcc.accu.or.jp/index.html>
- 5 日本模擬国連 Japan Model United Nations の HP を参照。
- 6 同上の HP を参照。
- 7 一例として次のサイトを紹介します。
<http://www.harvardmun.org/index.php>
また、世界各地で開催される模擬国連会議を紹介するサイトもあります。
<https://mymun.net/>
- 8 京都外大西高等学校の HP を参照。
- 9 公文国際学園の HP を参照。
- 10 全日本高校模擬国連大会は、昨年で11回目をむかえました。
- 11 東京書籍の東書 E ネットは、会員制のため閲覧には会員登録が必要です。
https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/active_learning/
- 12 ACCU は、前出のグローバル・クラスルーム日本委員会による全日本高校模擬国連大会を共催しています。
- 13 <http://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/2694>
- 14 <https://www.milive.jp/live/170904/>
- 15 http://www.accu.or.jp/jp/activity/global_classrooms.html
- 16 http://jcgcc.accu.or.jp/how_to_start_MUN.rev2.pdf

このほかに、かえつ有明中学・高等学校の関孝平先生が執筆された『模擬国連ガイドブック』で、模擬国連に関して網羅的に、かつ分かりやすく説明されている。関先生の HP よりダウンロードして閲覧が可能である。

<http://www.maxclassroom.net/munkaetsu.html>